

「新しい感性のエンターテインメント展」 「S-Booster 2018」 「新 4K8K 衛星放送」

神谷 直亮

新しいビジョン、新鮮な感性に基づくエンターテインメントを求める動きが、いろいろな分野で活発化している。宇宙や衛星放送ビジネスの分野も例外ではない。この背景としては、まず、内閣府宇宙開発戦略推進本部が、「宇宙産業ビジョン 2030」を取りまとめてベンチャー企業のみならず、異業種、学生、個人などから幅広いアイデアを集め、事業化の可能性を検討する支援を打ち出したことが挙げられる。

次いで、スカパー JSAT のように社内に新規事業戦略部、スペースインテリジェンス開発部、LIFE 事業部といった新しい部門を設けて、独自のビジョンで新規ビジネスを模索する会社が増えてきている。

一方では、新 4K8K 衛星放送が 12 月 1 日に開局したことで、NHK、民放、独立系番組提供事業者による新しい魅力のある 4K8K 番組制作への挑戦が始まった。

本稿では、まず、11 月にこのような社会環境・事業環境の変化を視野に入れた 2 件の展示会と発表会が開催されたのでレポートする。1 件は、「新しい感性のエンターテインメント」と題する展示会で、スカパー

JSAT と金沢美術工芸大学（金沢美大）が主催した。もう一件は、9 つの企業・機関が運営する優れた宇宙ビジネスのアイデアを発掘する「S-Booster 2018」が開催され注目を集めたので紹介する。次いで、いよいよ開局を迎えた新 4K8K 衛星放送に触れたいと思う。

「新しい感性のエンターテインメント展」

スカパー JSAT と金沢美術工芸大学（金沢美大）が共催した「新しい感性のエンターテインメント展」は、11 月 9 日から 11 日まで AXIS ギャラリー（東京・六本木）で開催された。会場には、金沢美大で製品デザインを専攻する学生 16 名の作品が展示されていた。主催者によれば、4 名のプロのデザイナーをメンターとして迎えて創り上げた成果とこのことであった。

展示された 16 作品の中で、特に筆者の目を引いたのは、「FLASH 瞬時に感情を可視化・共有するマスク」「野生動物になれるエンターテインメント」「オリジナル花火を製作、AR で花火大会を開催」だ。いずれも VR（仮想現実）・AR（拡張現実）に着目しているのが特色である。

「FLASH～瞬時に感情を可視化・共有するマスク～」は、視聴者の感情、脳波、視線などをセンシングできるマスクを開発し、VR で可視化できるようにしようという提案である。さらに、スポーツの試合観戦やライブコンサートなどで、視聴者の考えや思いをお互いに共有できるレベルにまで加速させようと試みているのが良かった。

「野生動物になれるエンターテインメント」のポイントは、リアルタイムで動物の眼にアクセスして、動物の視点での 360 度映像を VR で試遊できるエンターテインメントを提案している。つまり、台本のないリアリティを狙っているのが新鮮な発想と言える。

「オリジナル花火を製作、AR で花火大会を開催」は、積み木のような花火の模型を使用してオリジナル花火を製作し、その製作した花火を使って AR を駆使する花火大会を開催しようというコンセプトである。つまり、現実と AR の良いところを組み合わせようという発想が評価できた。

VR も AR もまだニッチなマーケットとは言え、スカパー JSAT がどのように取り上げていくのか、今後の動向が注目される。

「新たな宇宙ビジネスアイデアコンテスト」と銘打った「S-Booster 2018」は、11 月 19 日に渋谷ストリームホールで開催された。この珍しいアイデアコンテストは、9 つの企業・機関がスポンサーになり、優れた宇宙ビジネスのアイデアを発掘する目的で行われている。

開会に際しての説明によれば、「本コンテストは今年 4 月から 5 月にかけて募った応募案件の中から、第一次、第二次審査を通った 12 件を最終的に審査して表彰に値する案件を選抜するという形式を取っている」という。

対象となった 12 件は、2 つの部門に分かれており、1 つはビジネスプラン部門、もう 1 つは未来コンセプト部門である。今回設けられた賞は、最優秀賞、未来コンセプト賞、審査員特別賞、スポンサー賞となっていた。

ビジネスプラン部門には、「ロケット海上打ち上げ」「宇宙から見つけるポテンシャル名産地」「静止測位衛星による津波早期警戒



写真1 「新しい感性のエンターテインメント展」では、「オリジナル花火を製作、AR で花火大会を開催」という現実と AR を組み合わせた発想が評価された。



写真2 スカパー JSAT を代表して今井豊サービス開発担当主幹が、「これからのエンターテインメント」の主旨説明に奔走していた。

サービス」「美肌衛星予報」など8件がリストされていた。最終審査基準は、「収益性」「革新性」「社会発展性」が3本柱である。

一方の未来コンセプト部門のファイナリストは、「地球上から月面基地開発可能なテレプレゼンスロボットの実現」「地球内部のCTスキャン」「超小型衛星群とグローバル地上局ネットワークによる地震発生予測」「Aurora for All」の4件であった。この部門の最終審査基準は、「革新性」「実現性」「社会発展性」の3つで構成されていた。最終審査を経て発表された結果は、栄えある最優秀賞が「ロケット海上打ち上げ」、審査員特別賞が「宇宙から見つけるポテンシャル名産地」、未来コンセプト賞が「地球内部のCTスキャン」ということになった。「ロケット海上打ち上げ」が最優秀賞に輝いたのは、待機状態にある海洋掘削リグを活用して、小型衛星の打ち上げを小型ロケットで行い需給のアンバランスを解消しようというビジョンが評価されたものである。しかし、筆者の経験から言うと、収益性の詰めが甘いように思われた。打ち上げリグの他に、打ち上げをコントロールする母船が必要である。リグを曳航して漁業関係者が納得する場所に設置するまでの手続きや時間を真剣に検討していないようにも思われた。また、衛星をリグまで運搬して、最終チェックをリグ上で雨風を防ぎながら行うコストが含まれているのが明確でなかった。

「新 4K8K 衛星放送」

新 4K8K 衛星放送が軌道に乗るかどうかの分岐点は、言うまでもなく視聴者を引き付けるだけの高精細で魅力ある番組を提供できるかどうかにかかっている。このため新鮮な構想に基づく創造性に満ちた番組作りが望まれる。12月1日にホテルニューオータニで開催された新 4K8K 衛星放送開局セレモニーでも、石田真敏総務大臣が



写真3 「新たな宇宙ビジネスアイデアコンテスト」と銘打った「S-Booster 2018」では、「収益性」「革新性」「社会発展性」の観点から選抜が行われた。

「創意工夫を凝らし魅力ある 4K8K 番組を制作し提供してもらうことが何よりも重要」と述べていた。

本稿執筆時点で、開局から20日ほどが経つが筆者の目に留まった番組としては、NHKがローマから8Kで生中継した男性ヴォーカルグループ「イル・ヴォーロ (IL VOLO)」の熱唱、同じくNHKが4Kで生中継した南極のドキュメンタリー、民放4局 (BSフジ4K、ABS朝日4K、BS-TBS 4K、BSテレ東4K) が共同で制作した「大いなる鉄路 16,000km 走破 (東京発パリ行き)」が挙げられる。

映像制作の専門家からは、「4K時代に入り最も波に乗るのは、商品を鮮明にハイライトできるショッピングチャンネルだろう」という皮肉交じりの声が聞こえてくる。確かに、4K QVCは、すでに4K 100%で放送に踏み切っている。ショッピングチャンネル4K、BSフジ、BSテレ東も4Kでテレビショッピングを始めている。テレビ東京の「開運なんでも鑑定団」に出品されるお宝も4K化されそうな気がする。12月16日のテレビ欄で目に付いたのは、Mr.マリックがナビゲートする「スーパー4Kマジック」だ。

話は変わるが、4K8Kビジネス最前線に注目している筆者は、12月



写真4 新 4K8K 衛星放送の開局を祝う式典には、業界のそうそうたるトップが出席して盛大に行われた。

1日から日刊紙の朝刊に載る「4K8K テレビ欄」を真っ先に見ている。それぞれ特色があり、読売新聞は、NHK 4K、NHK 8K、民放系4Kの番組を掲載して「4K8K放送は、専用受信機でご覧になれます」と注意を喚起し、かつ新 4K8K 衛星放送コールセンターのナビダイヤルを記載するという念入れようである。さらに12月15日号の「制作中」というコラムでは、BSフジ4Kで1月23日に放送される「松下奈緒 フェルメールの光を求めて」を紹介した。

朝日新聞と毎日新聞は、NHKのBS4KとBS8Kの番組のみを毎日載せている。朝日新聞は、「今日の番組」で簡単な注目番組に触れることもある。毎日新聞は、「おすすめ4K」という小さなコラムで、時々民放の1〜2番組の紹介を行っているのが注目だ。

Naoakira Kamiya
衛星システム総研 代表
メディア・ジャーナリスト

SWE DISH

緊急報道
ハイビジョン映像伝送
Ku-band/X-band

CCTスーツケース 90cmφ型 2タイプ有り
衛星通信用超小型可搬アンテナ
Suitcase CCT Satellite Communications Terminal



5分で運用開始



IATA対応収納ケース
その他にも1ケース収納型から3ケース分割型など各種ケースあり

エーティコミュニケーションズ株式会社
http://www.bizsat.jp TEL: 03-5772-9125